

# 土浦保健所管内感染症発生動向 2026年第22週(5/25~5/31)

この情報は速報性を重視しています。後日、数値に若干の修正が生じることがあります。

## 1 全数把握の感染症

感染症法の分類	疾患名・報告数
一類	報告なし
二類	結核 1件
三類	報告なし
四類	報告なし
五類	百日咳 1件、後天性免疫不全症候群 1件

## 2 定点把握の感染症

5ページからのグラフをご覧ください。

## 3 発生動向のコメント

### 1) 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)

22週目の1医療機関あたりの報告数は0.33と前週の0.17から増加しました。

### 2) 急性呼吸器感染症 (ARI : Acute Respiratory Infection)

22週目の1医療機関あたりの報告数は130.67と前週の84.50から増加しました。

急性呼吸器感染症 (ARI) は令和7年4月7日から感染症法の5類感染症に位置付けられ、患者数の報告対象となりました。ARIとは、ウイルスや細菌などの病原体によって引き起こされ、急性の上気道炎 (鼻炎、副鼻腔炎、咽頭炎、喉頭炎) 又は下気道炎 (気管支炎、細気管支炎、肺炎) を呈する症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

[令和7年度急性呼吸器感染症 \(ARI\) 総合対策 Q&A 厚生労働省ホームページへ](#)

[令和7年度今冬の急性呼吸器感染症 \(ARI\) 総合対策 厚生労働省ホームページへ](#)

### 3) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

22 週の報告数は 9.00 と前週の 7.33 から増加しました。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、飛沫感染や接触感染により拡がる感染症です。潜伏期間は 2～5 日で、発熱、咽頭痛、倦怠感、嘔吐などの症状がみられます。承認されたワクチンはないため、予防としては、感染者との密接な接触を避けることが最も重要です。また、手洗いや咳エチケットも有効です。

[A 群溶血性レンサ球菌感染症 国立健康危機管理研究機構ホームページへ](#)

[咳エチケットとは 厚生労働省ホームページへ](#)

## 4 お知らせ

### ○麻しん（はしか）について

麻しん（はしか）は、重症になりやすく、感染力が極めて高い感染症です。2020 年以降最多となるペースで感染拡大しています。更なる感染拡大防止のため、ご協力をお願いいたします。

[麻しんの感染拡大防止に向けた国民の皆様へのメッセージ](#)

### ★茨城県外・海外において麻しん（はしか）の報告数が増加しています

1 月下旬以降、東京都・千葉県・埼玉県・栃木県・神奈川県といった近隣の都県ではしか患者の発生報告が相次いでいます。**5 月 28 日に茨城県内でもはしか患者の発生報告がありました。**また、東京都、鹿児島市では、**集団発生が報告されています**（[東京都 3 月集団発生](#)、[東京都 4 月集団発生](#)、[鹿児島市 集団発生](#)）。患者の中には海外渡航歴のない方が含まれており、国内で感染する可能性があります。

さらに、海外においてははしかの流行が報告されており、インドネシアをはじめとする諸外国を推定感染地域とする輸入事例の報告が増加しています（国立健康危機管理研究機構ホームページ参照）。今後、海外からの輸入事例がさらに増えることや、国内におけるイベントや不特定多数が集まる機会を通して国内で感染が拡がること懸念されています。

はしかの潜伏期間は 10～12 日で、発熱や咳、鼻水、目の充血、発疹が主な症状です。はしか発症患者から周囲への感染可能期間は、発症日の 1 日前から解熱後 3 日間を経過するまでの期間で、発症前から感染力があります。空気感染、飛沫感染、接触感染で、ヒトからヒトへ感染し、その感染力は非常に強いと言われています。手洗い、マスクのみで予防はできません。麻しん含有ワクチンの接種が最も有効な予防法です。日本では、定期接種として、

MR(麻しん・風しん)ワクチンを用いて1歳と就学前の2回接種が行われています。定期接種の対象者だけではなく、医療・教育関係者や海外渡航を計画している成人も、はしかの罹患歴がなく、2回の予防接種歴が明らかでない場合やご自身の免疫が不十分なことが判明した方は麻しん含有ワクチンの接種を検討してください。

**★海外渡航予定のある方は、以下をご参照ください。**

①海外渡航前の注意事項

- ・ウェブサイト等を参考に、渡航先のはしかの流行状況を確認すること。
- ・母子健康手帳などを確認し、過去のはしかに対する予防接種歴、り患歴を確認すること。
- ・過去定期接種を実施した記録がない場合は、渡航前に予防接種を受けることを検討すること。
- ・はしかのり患歴やワクチン接種歴が不明な場合は、抗体検査を受けることを検討すること。

②はしかの流行がみられる地域に渡航後の注意事項

- ・渡航後、帰国後2週間程度は、はしか発症の可能性も考慮して健康状態に注意すること。
- ・発熱や咳、鼻水、眼の充血、全身の発疹等の症状が見られた場合は、医療機関を受診すること。また、受診時には、医療機関に対して事前に、はしかの流行がみられる地域に渡航していたことや、はしかの可能性について伝えること。
- ・医療機関を受診する際には、医療機関の指示に従うとともに、可能な限り公共交通機関を用いることなく受診すること。

[麻しん（はしか） 厚生労働省ホームページへ](#)

[麻しん 国立健康危機管理研究機構ホームページへ](#)

[麻疹 発生動向調査 国立健康危機管理研究機構ホームページへ](#)

[MR ワクチン 厚生労働省ホームページへ](#)

<自治体の麻しん（はしか）患者の発生情報（5月以降報道分）>

6月2日 11時時点 当所で確認できた範囲の情報です。

[名古屋市 5月8日](#)

[越谷市 5月8日](#)

[川口市 5月8日](#)

[川崎市 5月9日](#)

[古河市 5月11日](#)

[船橋市 5月11日](#)

[福井県 5月12日](#)

[東京都 5月14日](#)

[埼玉県 5月15日](#)

[川口市 5月16日](#)

[川崎市 5月18日](#)

[横浜市 5月19日](#)

[千葉県 5月21日](#)

[東京都 5月22日](#)

[川崎市 5月28日](#)

[茨城県 5月28日](#)

[高崎市 6月5日](#)

※海外では、はしか以外にも、日本には常在しない感染症や、日本よりも高い頻度で発生している感染症が報告されています。海外渡航の予定がある方は、渡航前に、その国で流行している感染症について確認し、予防接種を検討してください。

[海外へ渡航される皆様へ 厚生労働省ホームページへ](#)

[海外渡航者向け リーフレット 厚生労働省ホームページへ](#)

[海外渡航のためのワクチン 厚生労働省ホームページへ](#)

## ○百日咳について

百日咳は、2018年1月1日に全数報告対象となって以来、昨年の報告数が過去最多でした。年齢別の報告数では、10歳代が目立っていました（衛生研究所ホームページ参照）。生後6か月以下の乳児が感染すると、重症化して死亡するおそれがあります。予防にはワクチンが重要です。百日咳のワクチンは生後2か月から接種対象です。生後2か月になったら速やかに定期接種のワクチンを接種しましょう。

[百日咳 厚生労働省ホームページへ](#)

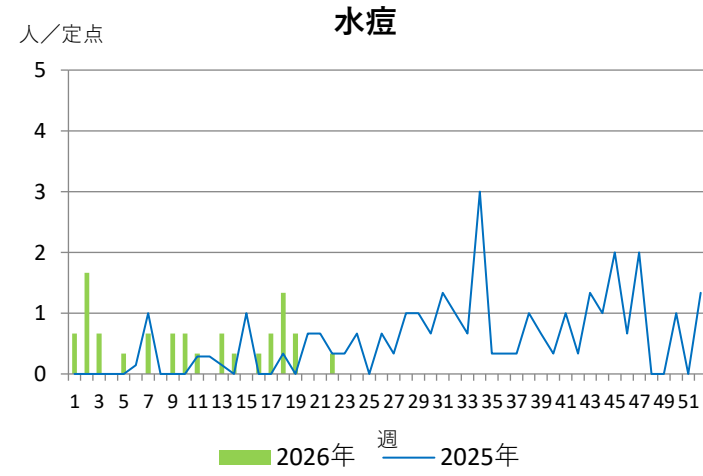
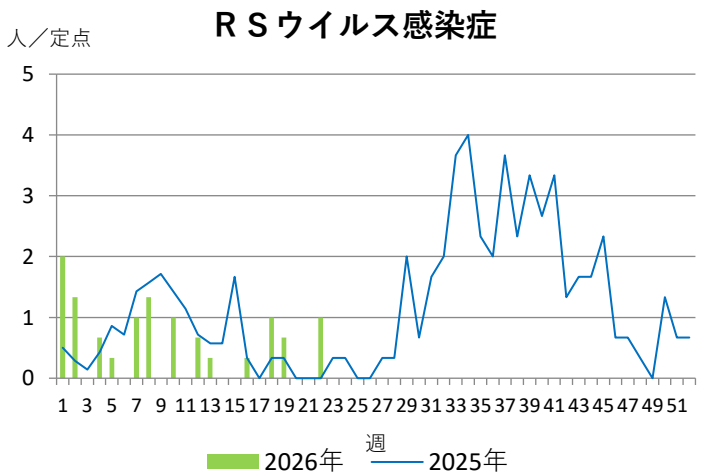
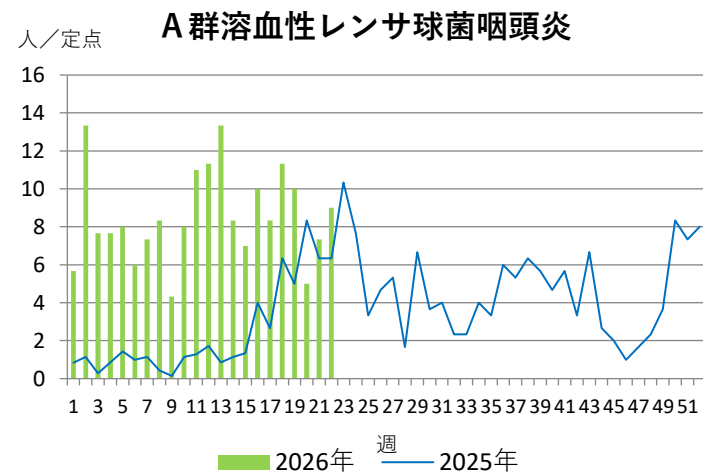
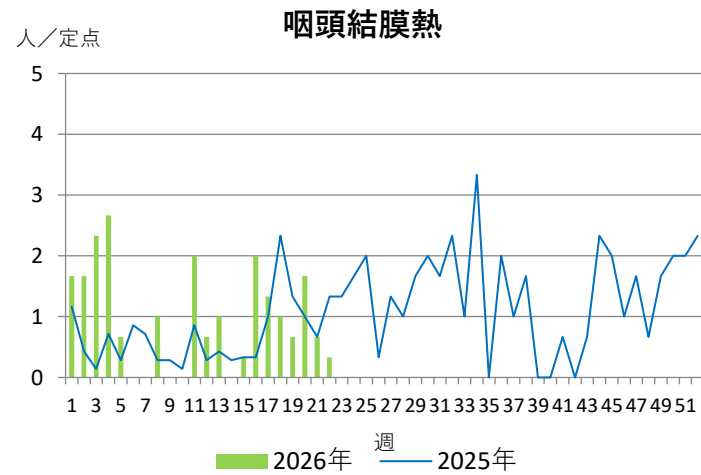
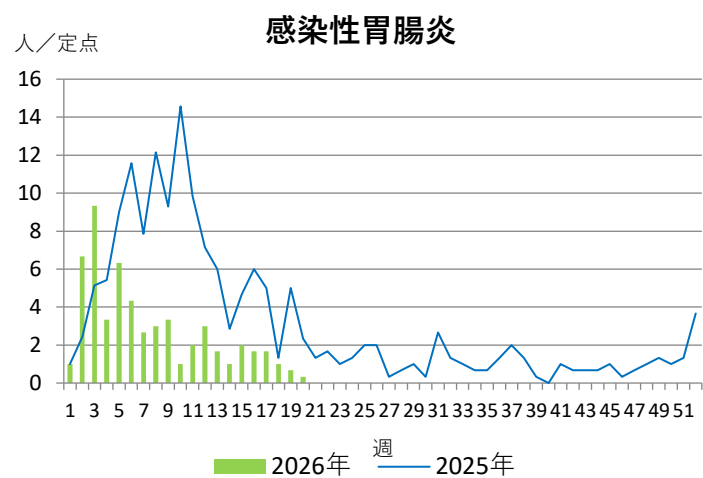
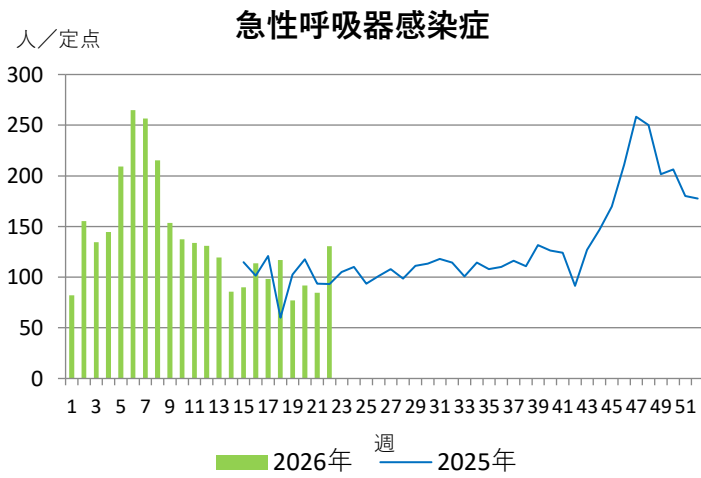
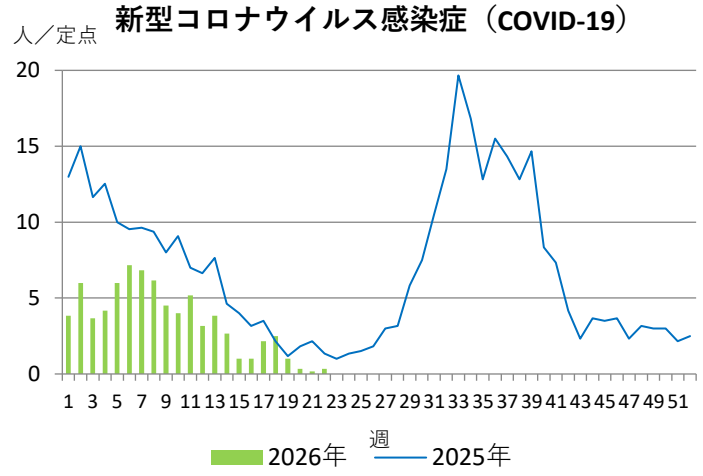
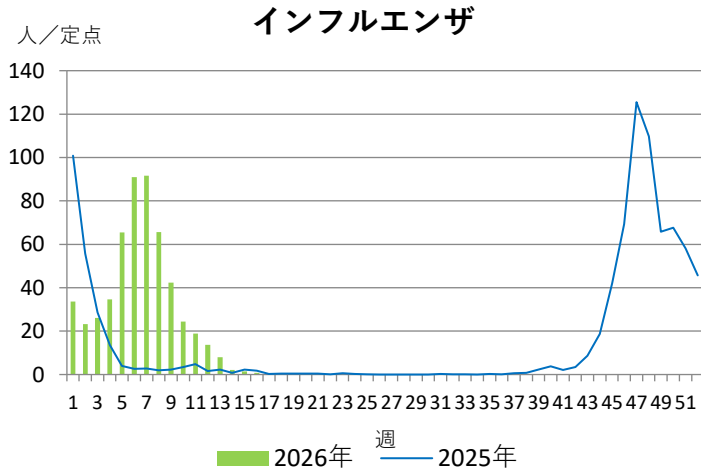
[百日咳の発生状況について 茨城県衛生研究所ホームページへ](#)

お問い合わせ先

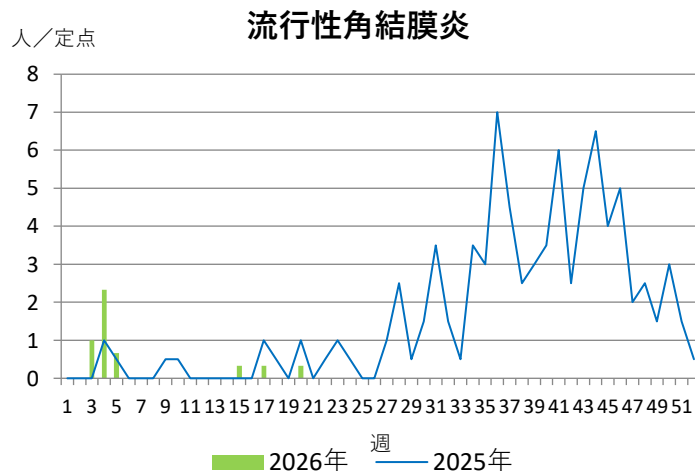
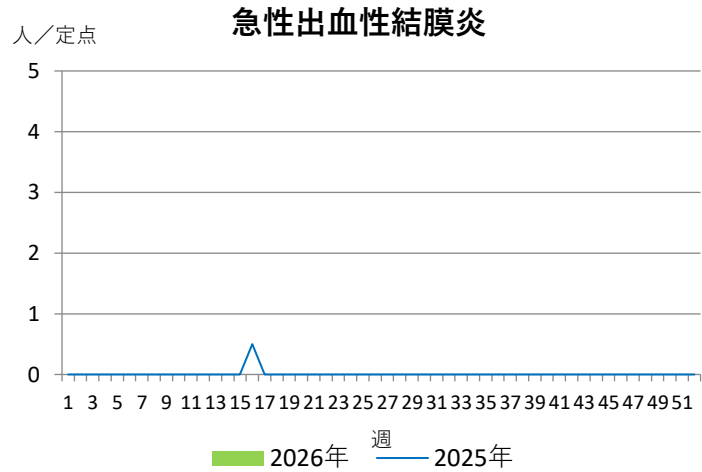
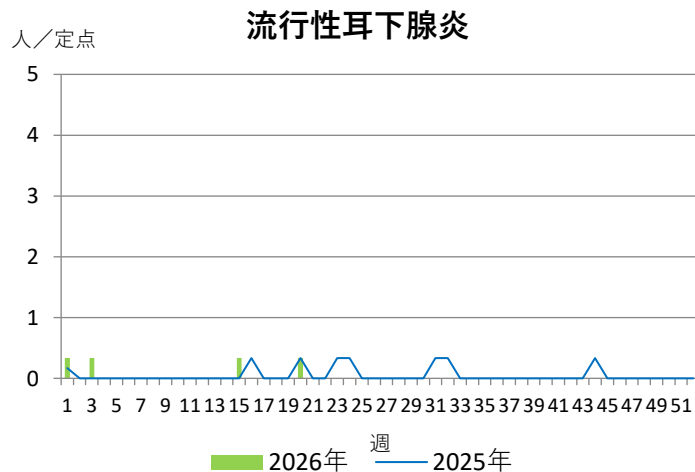
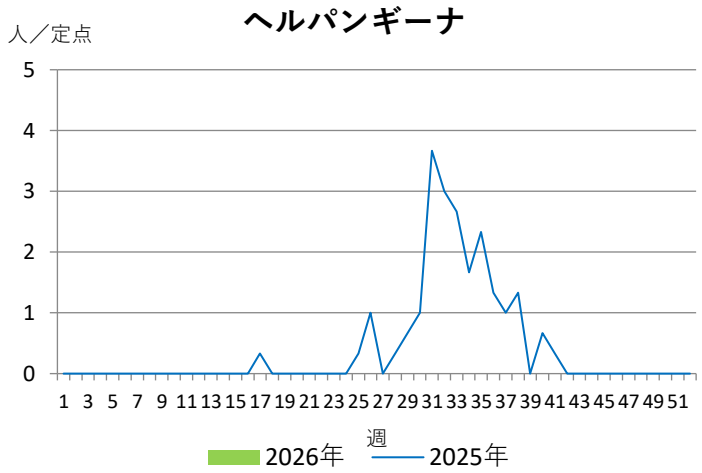
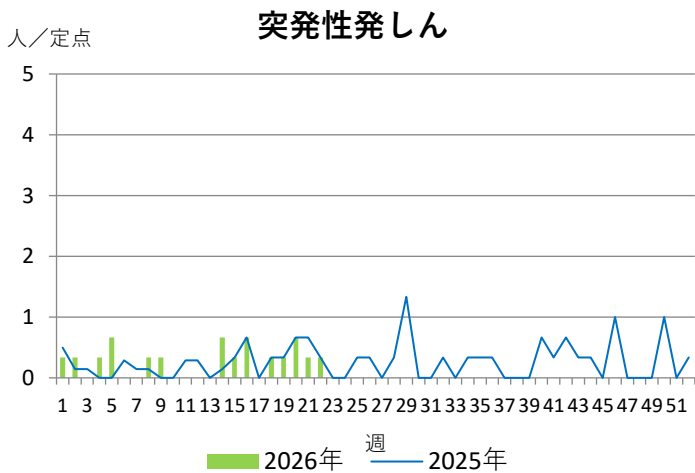
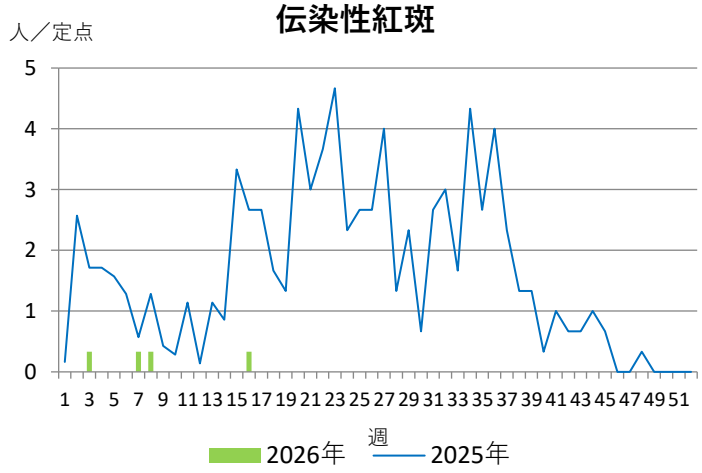
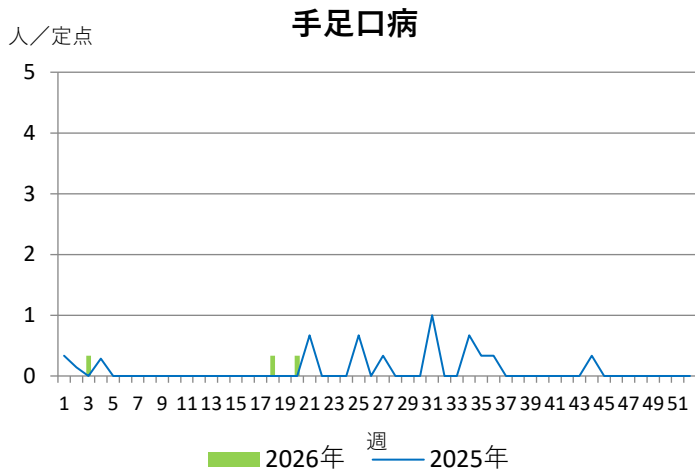
茨城県土浦保健所 保健指導課 ☎ 029-821-5516

✉ tsuchiho05@pref.ibaraki.lg.jp

令和8年（2026年）第22週 土浦保健所 定点把握対象疾患定点当たり報告数



令和8年（2026年）第22週 土浦保健所 定点把握対象疾患定点当たり報告数



< 定点当たり報告数とは >

定点医療機関からの報告数を定点医療機関数で割り算した値です。言いかえると、1医療機関当たりの平均報告数です。

< 茨城県の感染症発生状況 >

茨城県感染症情報センターホームページでご確認ください。

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/idwr/weekly/index.html>